



従来の畦道部分には木道を設置するとともに柵は簡素なものとしている



鯉のぼりの下で写生をする子供たち



この地域は生産緑地として利用され農産物の生産も行われている

DATA・BOARD ⑨

- ① 東京都足立区西保木間2丁目12番
- ② 遊歩道延長：142m・幅員：2m
- ③ 東武鉄道伊勢崎線竹の塚駅からバスで北保木間下車・徒歩3分
- ④ 白旗塚史跡公園、花畑記念庭園、元洲江公園・生物園、保木間せせらぎの道、伊興遺跡公園
- ⑤ 花見、芍薬観賞会、田植え、稲刈り、いも掘りなど



9 だいもん 大門自然プチテラス



足立区では、これまで地域住民によるまちづくり団体の育成に努めてきた。大門まちづくり研究会もこうした団体のひとつとして活動を行ってきたもので、足立区と連携のもとに「大門プチテラス」の整備が進められた。

大門地区は、かつて大乘院という寺院を中心に賑わった所で、その参道と公園が一体となって散策路が形成されている。この地域は、都市計画で定められた生産緑地地区内にあり、都市の貴重な緑を保全する対象となっているため、水田や畑なども残されている。

整備にあたっては、周辺に住む人々のアメニティ空間やコミュニティ活動の場として利用されるように、自然と調和した季節感豊かなポケットパークとして、また、子供たちの教育にも配慮し、まちづくりの次代を担う人材育成を図ることも目的に事業が進められた。従来の畦道には、木道を設けることで生産環境の維持を図るとともに、柵を簡素なものとして人々が作物を身近に眺めて季節の移ろいを感じ取れるように配慮し、都市と農地共存と安らぎの空間づくりを図った。

子供たちによる田植えやいも掘りなどの農業体験も行われており、この水田でつくられた藁で大蛇が編み上げられ、地元の祭礼に使われる。また、桜の咲く季節には提灯が飾られたり、五月には鯉のぼりが上げられるなど、地域と密着した施設となっている。